

生徒の主体性を引き出す ICT 活用

～中学校社会科における効果的な活用方法～

東根市立第一中学校 矢 萩 健

<研究の概要>

本研究では、中学校社会科の授業において、生徒の主体性を引き出し、より深い思考と理解を促すための ICT 機器の活用について考察した。導入の場面で映像資料を用いることで生徒に具体的なイメージをもたせたり、ipad を用いた調べ学習や発表を行うことで、生徒の学びにどのような変容があるかを検証した。

その結果、行ったこともない場所や見たこともないものに対する具体的なイメージができたことで、より生徒の理解を深め、深い思考を促すことができた。また、調べ学習や発表で ipad を用いたことで、生徒の関心・意欲が高まり、自ら進んで疑問点について調べたり、より聞き手に伝わりやすい発表にするための方法を考える様子が見られた。さらに、生徒どうしの交流が増え、仲間と情報や疑問を共有しながら、主体的に学ぼうとする姿も見られた。

中学校社会科の授業において、映像資料を積極的に用いたり、ipad を調べ学習や発表などの場面で活用したりすることは、生徒の主体性を引き出しより深い学びを促す手立てとして有効であった。

1 研究テーマ

本学級（2 学年）の生徒の実態として、全体的に ICT 機器を利用した授業に対する関心が高く、授業中の集中力が続かない生徒や、耳から情報を得ることが難しい生徒も、テレビやパソコンを使った視覚情報の提示には顔を上げて敏感に反応する。生徒の ICT 機器の活用技能としては、多くの生徒が日頃から家庭でもパソコン等に触れており、Word や Excel といった基本的な技能は習得している。さらに生徒によっては Power Point の使用や動画の編集等の技術を習得している者もあり、全体的に使い慣れている印象である。

そこで今回は、ICT 機器を単なる「生徒が情報を受信するための機器」としてではなく、「生徒が情報を受信・収集・発信するための機器」と位置づけ、より生徒の主体性を引き出す活用の仕方について研究していきたいと考え、本テーマとして設定した。

2 視点

(1) ICT を活用した効果的な情報提示

ICT 機器を利用して図表や映像などの諸資料を提示することで、生徒の学習意欲を

する。

(2) ICT を活用した探究型学習

レポートの作成、ディベート、グループごとのプレゼンテーションセッションなどの学習活動を取り入れ、生徒が ipad やパソコン等の ICT 機器を用いて主体的に課題を設定したり、情報を収集・活用してまとめた内容を発信したりする場面を設定する。

3 研究の方法と計画

(1) 視点 1 について

中学校社会科においては、どの分野・単元においても資料を提示する場面が多い。例えば具体的な場面として、地理では、生徒たちが行ったことも見たこともない場所のことをイメージできるよう、授業の導入で各地の様子が分かる写真や動画を見せる、歴史では、文献や絵巻物などの諸史料を提示し、そこから当時の様子について探るなどの場面が挙げられる。

このように、中学校社会科では、資料の提示の仕方や読み取り方が授業の大事なポイントになるため、年間を通してテレビ等の ICT 機器を積極的に活用していく。

(2) 視点2について

ICTを活用した探究型学習の一例として、以下のような学習活動を取り入れようと考えた。

地理的分野

- ・世界の諸地域、日本の諸地域についての学習で、世界の各州や日本の各地方の特色、各地域の課題とそれに対する解決策などについて調べてまとめ、ICT機器を用いてプレゼンテーションテーションを行う。

歴史的分野

- ・さまざまな歴史的事象や人物の業績について、インターネットを活用してその歴史的背景やメリット・デメリットなどを調べて情報交換をする。
- ・国民の意見が大きく分かれたり、政府内で考え方が対立したりした事例をテーマとして取り上げ、必要な情報を収集してディベートを行うなどの学習活動を取り入れる。

4 研究の実践

(1) 実践1

①実践の概要

ア 単元名

2年社会 歴史的分野

「近代国家の歩みと国際社会」

本時の目標

産業革命がその後のヨーロッパ社会に与えた影響について、諸資料をもとに考察し、まとめることができる。

イ ICTの活用について

授業の導入で、前時に学習した産業革命の進展の様子をNHK for schoolのクリップを用いて復習した。

展開の場面では、与えられた5枚の資料パネルから読み取った内容をもとに、産業革命後のストーリーを自分たちで作る活動を行った。その際、資料の注目したポイントなどに印をつけさせた。その完成した5枚の資料パネルをタブレットのカメラで撮影し、発表の際は、そ

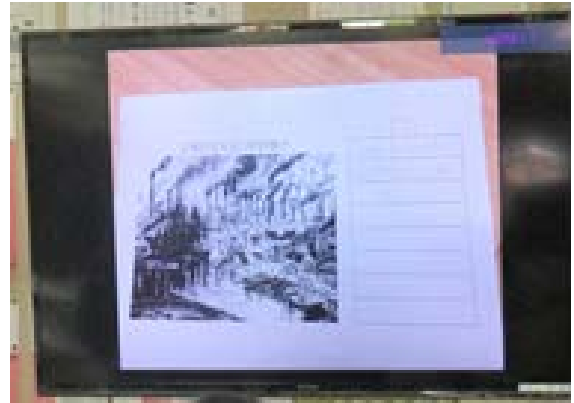
の写真をパワーポイントのように順番にテレビに写しながら発表を行った。

②子供の学びの姿

普段は前時の復習は口頭での一問一答で行うことが多く、発言が苦手なA児や関心の低いB児などは消極的だったが、NHK for schoolの1～2分程度の動画を用いることで、そういった生徒も短い時間で集中して前時の学習内容をふり返ることができた。

発表の場面では、生徒たちが作ったパネルをテレビに写して発表させたことで、聞き手の生徒たちはテレビを見ながら集中して話を聞いていた。また、注目したポイントに印をつけたことで、各グループの思考の過程も読み取ることができ、さらにそこをズームで示して補足説明をすることで、より効果的に情報を共有することができた。

導入や発表でのこのようなICT機器の活用により、A児やB児も関心・意欲を高め、主体的に活動に参加する様子が見られた。



(2) 実践2

①実践の概要

ア 単元名

2年社会 地理的分野

「日本の諸地域」(第4節 中部地方)
本時の目標

中部地方の都道府県の魅力を伝え合う活動を通して、中部地方の地域的特色や各県に対する関心を高める。

イ ICTの活用について

「観光大使になって県の魅力をPRする」という学習活動を行った。3～4人のグループに一つずつ担当する県を割り当て、その県の魅力を伝えるために、タブレットを用いて各自が設定したテーマについて調べ学習を行った。(グループに2つずつタブレットを配布)その際、プレゼンテーションに使用したい画像や資料はスクリーンショットと Air drop を使い、1台のタブレットにまとめさせた。

最後に、グループごとに調べた県の魅力についてプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは、タブレットに保存した画像を Apple TV を用いてテレビに映しながら行った。

②子供の学びの姿

生徒たちは各々が設定した具体的なテーマ(自然環境、観光名所、特産品等)について、生徒どうして積極的に意見交換をしながら意欲的に調べ学習を行っていた。テーマ設定に幅をもたせたことで、より自分の興味関心に沿ったテーマ設定ができ、関心を高められた一方、中には「県の魅力を伝える」というねらいから逸れてしまった生徒もいた。

発表の場面では、知識はあるが普段あまり積極的に発言しないA児も、ipad を使って魅力が伝わるすばらしいプレゼンテーションを行った。ipad の活用により、普段見えないA児の積極的な一面を引き出すことができた。

聞き手の生徒たちは、集中力が長続きしないB児も含め、ほとんどが顔を上げてメモを取りながらプレゼンテーションを聞いていた。

調べ学習や発表の場面でこのように ipad

を用いたことで、生徒は自らが疑問に感じたことを進んで調べたり、調べたことを進んで情報交換したり、聞き手により分かりやすく伝えるためにはどうしたらいいかを自分で考えるなど、生徒たちが自分自身で学びを深めていく様子が見られた。



(3) 実践3

①実践の概要

ア 単元名

1年社会 地理的分野

「世界の諸地域」(第1節 アジア州～第6節 オセアニア州)

本単元の目標(関心・意欲・態度)

世界の各州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究しようとする態度を養う。

イ ICTの活用について

世界の6つの州の学習の導入として、NHK for schoolの10min.boxを視聴して、それぞれの州のおおまかな特色や変化、抱えている課題などについて、視覚的に捉えさせた。

②子供の学びの姿

中学校の地理の授業では、世界の各州や日

本の各地方など、行ったことのない場所や見たことのないものの学習がほとんどである。そのため、生徒たちが具体的なイメージを持って学習に臨むことはなかなか難しい。その点、NHK for school では、それぞれの地域の特色や課題を短い動画にまとめており、生徒たちは各地域のおおまかな特色を視覚的に捉えた上で学習に臨むことができた。また、10分という短い時間にまとめているため、集中力が続きにくいB児も、集中して見ることができた。



5 結果と考察

(1) 視点1について

NHK for school のクリップや動画は、生徒に気づかせたいポイントや地域の特色、抱える課題などが短い時間でよくまとまっており、学習の導入としてもまとめとしても非常に有効であった。この動画を日常的に活用した結果、生徒は行ったことのない地域や見たことのないものについて具体的なイメージを持つことができ、単元の課題を十分に把握して学習に臨むことができた。また、日常的活用が簡単にでき、生徒の学習意欲や追及の態度の継続にも有効であった。

生徒の発表の際に ipad とテレビを用いることで、具体的な資料を提示しながら説明したり、着目させたい箇所をズームで示したりするなど、資料提示の仕方の幅が広がった。これによって生徒の資料活用の技能が高まり、資料をより具体的に読み取れるようになったことで、生徒の理解をより深めることができた。

(2) 視点2について

ipad を使った調べ学習や発表を行ったことで、生徒の学習意欲が高まり、普段あまり発言しない生徒や調べ学習に前向きでない生徒も、積極的に活動に取り組むことができた。また、聞き手の生徒たちも、ほとんどが顔を上げて話を聞いていた。画像やグラフを提示したことで、言葉や文字だけで伝える発表よりも、聞き手の関心・意欲を高めることができた。

さらに、ipad を使ったことにより協働的に学ぶ展開が確保でき、生徒たちが得られる情報が豊富になったことで、地域の特色を多面的・多角的に考察することができた。単元を展開していく中でも、グループ内での活発な意見交換が見られた。

(3) 今後の課題

今年度は、主に地理の分野において、写真や動画などの資料提示や ipad を使った学習活動などを積極的に実践することができた。しかし、教師によるICT機器を使った情報提示は日常的に実践することができたが、生徒自身がICT機器を活用して学びを深める機会が少なかったため、生徒の活用技能はまだまだである。また、ipad を用いた調べ学習に生徒たちは意欲的に取り組んでいたものの、単に自分の興味だけの内容に走ってしまう生徒も見られた。

来年度は、生徒が様々な場面でICT機器に触れられるようにし、生徒自身がipad等を用いて学ぶ活動がよりスムーズに展開できるようにしたい。また、歴史や公民の分野での効果的な活用も考えていきたい。その際、教師側である程度の枠組みをきちんと示したり、与える情報を精選したりするなど、教師のねらいとするところ（～への関心・意欲を高める、～について考えさせる等）に向かわせる工夫も考えていきたい。